

笹谷 絵里

専任講師

研 究 業 績

2021年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著書（単）	『新生児マス・スクリーニングの歴史』洛北出版、総355頁	2019.9
著書（共）	『子どもの保健と安全』高内正子編著、教育情報出版（共同執筆者：有馬裕子、竹安知枝、住本克彦、郷木義子、原真里奈、上田恵子、吉澤一弥、金山時恵、山脇眞弓、新井葵、中原雄一、黒瀬久美子、高内茂、西山里利、竹内麻貴、吉本菜つみ、原子純、田中笑子、谷川友美、綿貫恵子、藤田稔子、坂上節子、隣谷正範、中村歩美、杉浦絹子、阿部奈奈、居崎時江、渡邊悦子、森知子、石山みづ美、成川美和、葛本ひとみ、笹谷絵里）155～161頁	2020.3
著書（共）	『少子化社会と妊娠・出産・子育て』由井秀樹編著、北樹出版（共同執筆者：安藤藍、金森京子、北島加奈子、木村尚子、小嶋理恵子、笹谷絵里、瀧川由美子、利光恵子、伏見裕子、松島京、吉田一史美）62頁	2017.4
分担執筆	15章、2.3：子どもと保健指導 16章、1：子どもの健康と安全管理体制、高内正子編著、『子どもの保健と安全』教育情報出版、155～161頁	2020年3月
論文（単）	「幼児の「健康」と「遊び」について」（単著）『児童福祉学研究』児童福祉学研究会、第3巻第2号、2-8頁	2020年3月
論文（単）	「幼児期から学童期につながる運動—ねこちゃん体操を通じた運動遊びから体育学習への接続—」（単著）『児童福祉学研究』児童福祉学研究会、第3巻第2号、9-18頁	2020年3月
論文（単）	「日本の子どもの検査をめぐる優生思想の歴史」（単著）『Ⅲ. INTERNATIONAL SOCIAL SCIENCES CONGRES FULL TEXTS E-BOOKS』Ⅲ. INTERNATIONAL SOCIAL SCIENCES CONGRES 943-957	2020年6月
論文（単）	“Parental Beliefs Regarding Neonatal Screening Tests by Tandem Mass Spectrometers in Japan: An Online Survey”（単著）USBK 2020 ONLINE INTERNATIONAL SOCIAL SCIENCES CONGRESS FULL TEXTS E-BOOKS USBK 2020 ONLINE INTERNATIONAL SOCIAL SCIENCES CONGRESS 1-11	2020年11月
論文（単）	「震災遺構をめぐる人とモノ—地域連携と学校安全・教育の視点から—」（単著）『徳島科学誌雑誌』徳島科学誌研究会、第36号、28-32頁	2020年12月

論文（単）	「養護教諭養成課程における SA (student assistant) を活用した健康相談活動と保健指導の実際」『児童福祉学研究』児童福祉学研究会、第 3 巻第 1 号、5-20 頁	2019. 9
論文（単）	「養護教諭養成課程での『看護実習指導』における学生の学び—事例を通じた学習と事例に対する教材作成—」『児童福祉学研究』児童福祉学研究会、第 3 巻第 1 号、9-13 頁	2019. 9
論文（単）	「都道府県及び指定都市の新生児マス・スクリーニングの認識—タンデムマス質量分析計の導入と検出疾患の拡大に着目して—」『保健医療 社会学論集』日本保健医療社会学会、第 30 巻第 1 号、76-80 頁	2019. 7
論文（単）	博士学位論文 日本における新生児マス・スクリーニングの歴史的検討—「遺伝」をめぐる問題に着目して—	2018. 9
論文（単）	「新生児マス・スクリーニングに対する意識—出産女性の遺伝情報に対する語りから—」『Core Ethics』立命館大学大学院先端総合学術研究科、第 14 巻 47-58 頁。	2018. 3
論文（単）	「新生児マス・スクリーニング導入後の保因者検索と出生前診断」『立命館人間科学研究』立命館大学人間科学研究所、第 37 号 17-30 頁。	2018. 2
論文（単）	「新生児マス・スクリーニングと治療可能性—特殊ミルク開発の歴史に照らして—」『保健医療社会学論集』日本保健医療社会学会、第 28 巻第 2 号 76-86 頁。	2018. 1
論文（単）	「新生児マス・スクリーニングへのタンデムマス質量分析計の導入」『徳島科学史雑誌』徳島科学史研究会、第 36 巻 32-44 頁。	2017. 12
論文（単）	「新生児マス・スクリーニングをめぐる論争の再検討—女性団体の運動と先天異常モニタリング研究の議論を中心に—」『立命館人間科学研究』立命館大学人間科学研究所、第 35 号 33-48 頁。	2017. 2
論文（単）	「日本における新生児マス・スクリーニングの導入—「保因者」の発見と「出生防止」に着目して—」『Core Ethics』、立命館大学大学院先端総合学術研究科、第 12 巻 103-114 頁。	2016. 3
論文（単）	修士論文 知的障害児を持つ家族ニーズ～京都市南部地域の A 事業所を利用する知的障害児家族のニーズ調査から～	2006. 3
論文（単）	「中年期男女の介護保険に対する認識度-質問紙調査から-」『KGPS review: Kwansei Gakuin policy studies review』第 6 巻 113-132 頁。	2006. 3
調査報告書	「母子保健における『標準化像』の形成過程に関する歴史的 研究」報告書 母子保健史の間隙 ～母子保健は人々に何をも	2019. 4

	たらししてきたか～、53-59 頁及び 75-88 頁	
調査報告書	第 6 章「新聞における児童虐待記事と事件報道の推移—2000 年から 2018 年の「児童虐待」報道に関する『読売新聞』と『朝日新聞』の分析から—」、第 8 章「日本の母子政策の歴史—環境改善と遺伝的改善による「質の向上」に着目して—」トヨタ財団研究助成	
その他（単）	「父親と子どものオムツ交換」『生存学』生活書院 8 巻 119 - 122 頁。	2015. 3
口頭発表（単）	「日本の子どもの検査をめぐる優生思想の歴史」（単独）Ⅲ. INTERNATIONAL SOCIAL SCIENCES CONGRES, Kayseri University-Turkey	2020 年 1 月
口頭発表（単）	“Parental beliefs about neonatal screening tests by tandem mass spectrometer in Japan: An online survey”（単独）USBK ONLINE/JUNE2020, ONLINE	2020 年 6 月
口頭発表（単）	「学校における医療的ケアに対する認識—医療的ケアが必要な子どもを持つ家族の話の前後での学生の意識の変化—」（単独）日本保健医療社会学会、オンライン	2020 年 9 月
口頭発表（単）	「遺伝学的検査における「保因者」の生成」（単独）日本保健医療社会学会、オンライン	2020 年 9 月
口頭発表（単）	「聴覚障害児教育におけるローカルとスタンダード— インドネシア・バリ島の聴覚障害児教育—」（単独）日本社会福祉学会、オンライン	2020 年 9 月～10 月
口頭発表（単）	「養護教諭養成課程における看護基礎技術に対する SA (student assistant) と受講生双方の学びと課題」（単独）日本看護研究学会、オンライン	2020 年 9 月～11 月
口頭発表（単）	“Ethical knowledge from lecturer with cervical spinal cord injury: Experience of the cervical spinal cord injury by traffic accident and ethics on use of aborted fetus in the regenerative treatment”（単独）International Health Humanities Conference, ONLINE	2020 年 10 月～11 月
口頭発表（単）	“Change of recognition toward medical care among students under school nurse training”（単独）International Health Humanities Conference, ONLINE	2020 年 10 月～11 月
口頭発表（単）	「幼稚園教諭の医療的ケアに関する認識」（単独）日本小児保健協会、オンライン	2020 年 11 月
口頭発表（単）	「新生児マススクリーニング対象疾患と出生前診断」（単独）社会文化学会、オンライン	2020 年 12 月
口頭発表（単）	「沖縄における親子関係 —ひとり親の子どもを産む・育てる	2020 年 12

	の語りから—」（単独）日本生命倫理学会、オンライン	月
口頭発表（単）	「「ろうの村」の観光地化と経済性」徳島科学史研究会・日本科学史学会四国支部 2019 年合同年総会、香川大学	2019. 8
口頭発表（単）	「台湾の育児書による優生思想」日本科学史学会、岐阜大学	2019. 5
口頭発表（単）	「戦後日本の母子政策の歴史 —沖縄県嘉手納町に着目して—」日本保健医療社会学会、東京女子医科大学	2019. 5
口頭発表（単）	「日本における新生児マス・スクリーニングの 歴史的検証と現在をめぐる調査研究 —遺伝医療としての倫理的課題から—」2018 上廣倫理財団 研究助成発表会	2018. 12
口頭発表（単）	「遺伝学的検査に対する男女の認識—タンデムマス法を受検した子どもを持つ親の Web 調査を通じた認識から—」社会文化学会第 21 回全国大会	2018. 12
口頭発表（単）	「日本の母子政策の歴史—環境改善と遺伝的改善による「質の向上」に着目して—」第 22 回科学史西日本研究大会	2018. 12
口頭発表（単）	“Development and medicalization of the special formula for individuals with glycogen storage disease” VIII FRENCH JAPANESE INTERNATIONAL BIOETHICS CONFERENCE	2018. 8
口頭発表（単）	「日本における新生児マス・スクリーニングの歴史的検証と現在をめぐる調査研究—遺伝医療としての倫理的課題から—」2017 上廣倫理財団 研究助成発表会	2017. 12
口頭発表（単）	「新生児マス・スクリーニングに対する認識——タンデムマス・スクリーニングをめぐる語り—」徳島科学史研究会 7 月例会	2017. 7
口頭発表（単）	「新生児マス・スクリーニングへのタンデムマス質量分析計の導入——SIDS（新生児突然死症候群）とタンデムマス質量分析計の関連に着目して」日本科学史学会第 64 回年会	2017. 6
口頭発表（単）	「新生児マススクリーニングと出生前診断との関連」第 28 回日本生命倫理学会	2016. 12
口頭発表（単）	「日本の新生児マス・スクリーニングにおける治療の展開—治療用特殊ミルクに着目して—」第 63 回日本科学史学会	2016. 5
口頭発表（単）	「新生児マス・スクリーニングに対する認識—タンデムマス・スクリーニングをめぐる出産女性の語りに着目して—」第 42 回日本保健医療社会学会	2016. 5
口頭発表（単）	「日本における新生児マス・スクリーニングの導入—「保因者の発見」と「出生防止」に着目して—」日本科学史学会 第 19 回西日本研究大会	2015. 11
口頭発表（共）	「保育活動における幼児の姿 倉橋惣三の幼児に対する環境	2020 年 11

	活動」(笹谷絵里・千田眞喜子)対人援助学会、オンライン	月
口頭発表(共)	「運動遊び・幼児体育に関する調査研究 保育者の経験が子どもに与える影響に着目して」(笹谷絵里・荒木慎太郎・安達美樹・大林緑・山本清文)対人援助学会、オンライン	2020年11月
口頭発表(共)	「母子世帯の子育ての困難をめぐる重層的要因—大阪府の支援団体調査からの分析—」第18回社会文化学会(共同研究者:村上潔・堅田香緒里・村上慎二・笹谷絵里・中倉智徳)	2015.12
ポスター発表(単)	「養護教諭養成課程の学生の倫理観—看護学Iでの当事者性をもつ特別講師の講義からの学び—」日本生命倫理学会、東北大学	2019.12
ポスター発表(単)	「インドネシア・バリ島の「ろう者の村」としてのブンカラ村の現状と実際—「Kata kolok」の歴史と村の経済という二つの側面に着目して—」日本社会福祉学会、大分大学	2019.9
ポスター発表(単)	「台湾の育児書における「出生前診断」と「保因者診断」の表象」日本保健医療社会学会、東京女子医科大学	2019.5
ポスター発表(単)	「新生児マス・スクリーニングに対する意識—2014年4月以降に出生した子どもを持つ男性の遺伝情報に対する語りから—」2018年度立命館大学人間科学研究所年次総会	2019.2
ポスター発表(単)	「新生児マス・スクリーニングに対する意識—2014年4月以降に出生した子どもを持つ男性の遺伝情報に対する語りから—」日本生命倫理学会第30回年次大会	2018.12
ポスター発表(単)	「虐待をめぐる社会の認識変化—2000年から2018年の「児童虐待」報道に関する『読売新聞』と『朝日新聞』の分析から—」日本社会福祉学会第66回秋季大会	2018.9
ポスター発表(単)	「タンデムマス法による新生児マス・スクリーニングの受検認識—タンデムマス法導入以降に出生した子どもをもつ男女に対するWEB調査から—」第44回日本保健医療社会学会	2018.5
ポスター発表(単)	「新生児マス・スクリーニングへのタンデムマス質量分析計の導入—都道府県、指定都市への質問紙調査から」第43回日本保健医療社会学会	2017.5
ポスター発表(共)	「日本のローンマザーの時間と経済に関する自律性—インタビュー調査と子育て関連ケイパビリティからの分析—」第64回日本社会福祉学会(共同研究者:村上慎二、堅田香緒里、笹谷絵里)	2016.9
社会的活動・その他	発表者「新生児マス・スクリーニングの歴史(洛北出版2019)書評会」第83回・社会文化論研究会(社会文化学会・西部部会)龍谷大学大宮キャンパス	2020年3月
社会的活動・	司会「おうちで歌おう 踊ろう ZOOM で!音楽会」京都の医	2020年8月

その他	療的ケアを考える会	
社会的活動・その他	発表者「コンテストーションを超えて—治療と介入の社会学—」医療社会学研究会、	2020年6月
社会的活動・その他	座談会「第34回花園大学人権週間 企画2 『コロナ禍における障害のある人たちの暮らしといのち、そして人権』」花園大学人権教育研究センター	2020年12月
社会的活動・その他	日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 「遺伝学的検査における「保因者」の日台比較—育児書における優生思想の相違—」（2019年度—2020年度）	
社会的活動・その他	2020年度日本保健医療社会学会 機関紙編集委員会査読委員	
社会活動	学校法人 桃林幼稚園（とうりん幼稚園）職員研修②「幼稚園における「健康と薬」—アレルギー症状に対するエピペンの使用—」、講師	2019.9
社会活動	学校法人 桃林幼稚園（とうりん幼稚園）職員研修①「幼稚園での危機管理と救急対応」、講師	2019.8
社会活動	療的ケアの必要な子どもたちと家族の「親子コンサート」スタッフ	
社会活動	京都の療的ケアを考える会「KICK」執行役員	